

～人の輪、気遣いの輪、気づきの輪が広がっていく～

ala 多文化共生プロジェクト

可児市の人口の約 7.8% (2020 年 7 月 1 日現在) は外国にルーツのある人。
アラでは国籍も年齢もさまざまな参加者たちが同じ時間を共有しながら一つの
舞台を作り上げる「多文化共生プロジェクト」を 2008 年から実施しています。

プロジェクトでは何が行われ何が起こったのか、プロジェクトに初期段階から出演
者・アドバイザーとして携わる住吉エリオさんと、2018 年より作・演出を手掛けて
いる鹿目由紀さん（劇作家・演出家・劇団あおきりみかん主宰）にお話を伺いました。

▲ 2019 年度 公演の様子

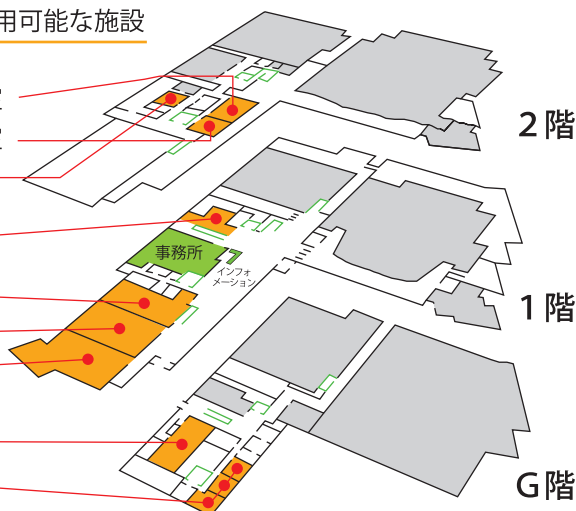
可児市文化創造センターは、大規模な改修工事を一部完了し、**2020 年 10 月 1 日（木）より部分開館** 致します。
施設のご利用にあたっては、感染症拡大予防のためのガイドラインの確認・遵守を宜しくお願い申し上げます。

10 月 1 日（木）より利用可能な施設

ワークショップルーム洋室
ワークショップルーム和室
研修室

ギャラリー
音楽ロフト
演劇ロフト
美術ロフト

映像シアター
音楽練習室 1・2・3



主劇場、小劇場、レセプションホール
会議室（旧 控室 1）、控室（旧 控室 2）
演劇練習室、木工作業室は、引き続き
改修工事のため 2021 年 1 月 7 日（木）
まで使用できません。

※ ロビーやトイレ等の共用スペースにつ
いては、一部利用制限があります。
※ 感染症拡大防止のため、2 階キッズ
ルームの利用は当面の間中止します。
※ ロビー等の共用スペース利用で 30 分
以上滞在する場合は、入館時に 1 階
インフォメーションまたは事務所に
「利用届出書」を提出してください。

『感染症への対応とご協力をお願い』

はこちら⇒



※ 施設内レストランは、2021 年 1 月の全館開館に合わせてオープン予定です。



(前列・左2番目: 鹿目さん 中央・1番奥: エリオさん)

2018年から多文化共生プロジェクトの作・演出を務める鹿目由紀さん。作品づくりでは、出演者へのインタビューをもとに脚本を起すというドキュメンタリー演劇の手法がとられています。インタビューから作品が生まれ、その言葉を本人が語るの、ドラマとしての演技のおもしろさと、その人自身のリアルな姿について知るきっかけともなるのが特徴だと思いますが、実際に作・演出に取り組んでみての印象と、過去2作品での創作上のエピソードを聞かせてください。

鹿目 ドキュメンタリー演劇というスタイルは初めてでしたが、参加する皆さんの人生を物語に反映させていく作業は、話し合いを軸に《人とのつながり》を深めながら創作を進めていくこれまでの芝居づくりと何ら変わらないと思いました。そしてインタビューを通して日本で暮らしている外国籍の人が、言葉だけでなく文化や考え方の違いなど想定外の壁にぶつかりいろいろ悩んでいると改めて気付きました。それを掘り下げて脚本に起こし、この物語の中で何か解決の糸口が見つければいいなと思いました。毎年インタビューを重ねる中で、「この人に元気になって欲しい」という人に必ず出会います。

2018年の『ある夜、あるBarにて』では、ブラジルのバーは日本人がイメージするものとは違い、大人だけでなく家族で訪れたり、初めての人も分け隔てなく仲間のよう集う場所であるというインタビューで聞き、「そこがこの芝居そのもの」と感じました。物語はブラジル人参加者ミネーロさんとの出会いが軸になっています。日本に来て6年、未だ日本語が拙い事に罪悪感を持っていて、日本では本来のお喋りで面白い自分が出せないと言っていました。その本音を彼自身の言葉で舞台でも話してもらおうと思いました。稽古が進むにつれて明るくなっていく彼を見て、「ああ、これが本当のミネーロなんだろうな」という所までたどり着く事が出来たのが大きかったです。



▲2018年公演の様子 ミネーロさんの独白

2019年の『にぎやかなお葬式』では、お葬式にまつわる話を参加者一人ひとりに聞いてみたら、皆いろいろなエピソードを持っていたのと同じに、国や宗教によりお葬式のやり方がさまざまである事が分かり、その会話を舞台にしてみようと思いました。そんな事を考えている時、エリオさんの知人の方が思い詰めて自ら命を絶ち、周りの方々が心を痛めているという話を聞きました。そこで「日本でも共存して生きていける」というメッセージを含めたいと思いました。エリオさんが天寿を全うして皆に見送られる役となり、たくさんの人と交流し温かく明るい彼の事を皆が語る物

語。最後は皆で踊りながら棺を運び、言葉も年齢も超え、文化と文化が融合しての最高の『にぎやかなお葬式』になりました。



▲2019年公演の様子 固定観念を超えて故人を送る

出演者として参加し、近年は参加者同士をつなげるアドバイザーとしてもプロジェクトを支えている住吉エリオさん。参加のきっかけと参加して感じて感じた事を教えてください。

エリオ 日本に来て20年になりますが、来日当初は、家と職場の行き来のみで仕事以外の楽しみがない状態でした。ブラジルでやっていた趣味を続けようと思っても、施設はどうしたら借りられるのか言葉の壁で分からない。それでも好きな事をやるべきではないかと思っていた時に、このプロジェクトに参加しないかと声を掛けてもらいました。ブラジルでは劇場に行くのも好きでしたが、いざ台本をもらってみると舞台で表現するなんて、最初は経験のない僕がいいのかなとも思いました。でもこのプロジェクトは、同じ町に住む人に自分を知ってもらい、いきつけになるのでは。人と人を知ってもらえたら、国籍を超えた関係性が築けるのではないかと感じました。そこで、プライベートで日本人と触れ合う機会がほとんどない周りの外国人にも参加を呼びかけました。出演する事で地元の日本人とたくさん交流が生まれ、

鹿目由紀 かのめゆき (作・演出 / 劇団あおきりみかん)

1976年、福島県会津若松市生まれ。劇団あおきりみかん主宰、劇作家、演出家。南山大学文学部卒。名古屋市在住。日本劇作家協会東海支部プロデュース「劇王」で四年連続優勝、第16回劇作家協会新人戯曲賞、若手演出家コンクール優秀賞、名古屋市芸術創造賞、平成22年度愛知県芸術文化選奨、第18回松原英治・若尾正也記念演劇賞など。『おそ松さん on STAGE ～SIX MEN'S SHOW TIME～』シリーズ、中村雅俊45thアニバーサリー公演『勝小吉伝 ～ああわが人生最良の今日～』など外部脚本も手掛ける。平成29年度・文化庁新進芸術家海外研修(短期)でイギリス・ロンドンにて研修。日本劇作家協会運営委員。日本演出者協会会員。





▲リモートでの「さつき教室」生徒たちへのインタビューの様子

鹿目 継続してプロジェクトに参加されている方へのインタビューは、空気が分かっていてるので画面上でも伝わるもの変わらないというか、むしろ一人ひとりに対して、より深く切り込んだ話までできた気がします。そして今回は多文化共生センター・フレビアの協力のもと、さつき教室（高校進学を希望する在住外国人の子どもの進学支援教室）の生徒さんへも授業の一環として「仕事」をテーマに話を聞き合う機会を頂きました。初めてお会いする人たちのリモートでの会話は、少し遠慮がちでもあったのですが、とても面白かったです。後で先生が、教室ではわりと消極的だった子たちが積極的に参加して仕事に対する考えを話してくれたことに驚いたと仰っていました。

プロジェクトで使う日本語は職場で使う限られた単語ではなく日常会話なので、新しい日本語もどんどん覚えられたと思います。

今年は新型コロナの影響もあり、リモートでの作品づくりという初めての試みに挑戦中ですが、参加者インタビューを経ての感想と、今後の脚本の方向性について教えてください。

たくさんさんのインタビューをもとに、今回は、「とある人が生まれてから死ぬまで」について、粘土で作ったキャラクターに参加者が台詞を吹き込む動画を作りたいと思っています。仮タイトルは『Tabano(トラバーユ)』。ポルトガル語の「トラバーユ」は、「仕事」という意味ですが、いろんな場面でも広い意味で使われるそうです。日本だと仕事はお金に結びつくイメージですが、子どもの世話やボランティア活動など時間をかけて行うことはトラバーユと言うそうです。とある人が生まれてから最後に死ぬまでに、何かいいトラバーユができたかという事を描きたいと思っています。

エリオ 今年は今までとは違う作り方だけでも、とても面白いと思っています。この状況の中で、違うやり方が出て来て、その方法を使いながら新しい作品を作るのはいい経験だと思います。これまでは稽古場に來てもらってやっていた事も、場所に縛られない分、妊婦さんや日本にいない人など、いつもなら参加してもらえないような人でも参加することが出来る。本来の自分のキャラクターのまま自分を表現して、それを知ってもらう事で外国人が地域に入りやすくなる、これをチャンスにするのいいと思っています。

これまでは公演会場に來られた限られたお客様に向けての発信でしたが、今回は映像作品ですので、多文化共生について考えた事がなかった方でも、いつでもどこでも気軽に観る事ができます。たくさんさんの『私のトラバーユ』が詰まった今年の作品を多くの人に届けて、『気付きの輪』が広がる事を願っています。作品は11月にYouTubeで公開予定です。

※今回の巻頭特集で掲載しきれなかった取材内容は、WEBサイトで↓



2016 年度『ミツバチぶんぶんハチミツぶん』 【作・演出】 森さゆ里（文学座） 	2017 年度『えんげき工作アトラクション』 【作・演出】 森さゆ里（文学座） 	2018 年度『ある夜、ある Bar にて』 【作・演出】 鹿目由紀 	2019 年度『にぎやかなお葬式』 【作・演出】 鹿目由紀
2012 年度『顔／ヘルソナ』 【構成・演出】 田室寿見子（Sin Titulo） 	2013 年度『ねこネコだいぼうけん』 【作・演出】 森さゆ里（文学座） 	2014 年度『星くず降る夜のだいぼうけん』 【作・演出】 森さゆ里（文学座） 	2015 年度『むかし昔のそのむかし』 【作・演出】 森さゆ里（文学座）
2008 年度『East Gate』 【構成・演出】 田室寿見子（Sin Titulo） 	2009 年度『危機一髪』 【構成・演出】 田室寿見子（Sin Titulo） 	2010 年度『夏の夜の夢』 【構成・演出】 田室寿見子（Sin Titulo） 	2011 年度『最後の写真』 【構成・演出】 田室寿見子（Sin Titulo）

日	曜	開演時間	終演予定	催事名	入場	お問合せ先
ギャラリー						
11~15	水~日	9:30	18:00	第39回 可児市美術展 最終日15:45まで	無料	可児市文化創造センター 0574-60-3311
18~22	水~日	9:00	17:00	まいんべるく展 最終日16:30まで	無料	渡邊聡典 080-3288-5562
26~29	木~日	10:00	17:00	日本画・水彩画 彩游会展 (日展作家 宮原剛 主催) 最終日16:00まで	無料	宮原剛 0574-65-3008

・主催者都合により発行後内容が変更になる場合がございます。催しの詳細につきましては主催者にお問い合わせください。 ・9/1時点でのお申込み状況を掲載しています。

【センター内で開催される催しについて】

- ・感染症拡大を予防するため、利用にあたっては丁寧な手洗い、手指の消毒を徹底し、マスクの着用、利用者間の間隔確保(できるだけ2m、最低1m)のご協力をお願いします。
- ・屋内での飲食は水分補給を除き禁止します。ごみが発生した場合は持ち帰りをお願いします。

館長エッセイ

essay

幸福感のあるまちのために — つながりの維持と強化を。

可児市文化創造センター館長兼劇場総監督 衛 紀生

3月にソーシャル・ディスタンスが感染予防の肝要と言われ、「三密」回避の重要性が喧伝される中で、私は「つながりの希薄化、まちの分断化」に対する危機感を強く感じていました。2008年に私がアールに導入した「社会包摂型劇場経営」は、地域の中に市民と市民の「つながり」を網の目のように張りめぐらせて、他者への思いやりと気づかいと心くばりのある「まちづくり」を企図するものでした。これは「見えない社会保障」です。そして7月6日に従来からの「専門家会議」が廃されて、「新型コロナウイルス感染症対策分科会」となり、経済の専門家と自治体の首長を加えての委員会が組成されて、感染症拡大防止と経済を回すことが両輪のようになりしました。しかし、私はこの風潮にも強い違和感を持つています。なぜなら、ソーシャル・ディスタンスで人間が他者との関わりを回避して、内向きになって「つながり」に臆病になったら支えあうコミュニティは次々に崩れてしまつのではないかと危惧するからです。ですから「感染拡大防止」と「経済再生」に、私は「まちが壊れていく」との危機感から「つながりの維持と強化」を加えてのトライアングル課題解決の委員会にすべきと考えています。社会包摂の「誰一人取り残さない」という理念が欠落してしまえば、どれだけ経済が回り始めても、どれだけ感染者が減少しても、幸福感のあるまちには決してならないと思っています。

「福祉」Wellbeing(幸福と健康)の大前提は「つながり」の豊かさだと私は思っています。利他的な社会こそが私たちが守るべき大命題です。この歴史的なパンデミックをくぐりぬけてたどり着くのは、そういう社会であってほしいと切に願うばかりです。可児には「つながり」を大切にしようと考えて活動しておられる団体や個人の方々が多くいらっしゃると思います。その「点を線」にして、可児を覆いつくす「面」とする自発的な連帯をつくりたいと考えています。

施設利用申請・施設利用ガイドラインについて

2020年10月1日(木)からの部分開館後の施設利用申請は、可児市文化創造センター・事務所にて受付致します。[休館日を除く9:00~21:00]

利用を希望する年・月		受付期間
【劇場及びギャラリー等】	【その他の施設】	
2021年1~9月分	2020年10~12月分	受付中
2021年10~12月分	2021年1~3月分	【調整期間】2020年10月1日~10日 【通常受付】2020年10月21日~

※お電話での仮予約は、通常受付開始の翌日からとさせていただきます。

※2021年4月1日以降のご利用から利用料金が変わります。⇒①

※施設ご利用にあたっては、感染症拡大予防のためのガイドラインを確認・遵守ください。⇒②



①「新料金のお知らせ」



②「感染症への対応とご協力をお願い」

可児市文化創造センター info@kpac.or.jp

〒509-0203 岐阜県可児市下恵土3433-139
TEL.0574-60-3311 FAX.0574-60-3312

※施設内レストランの営業は、
2021年1月からを予定しています。



10月は 6、13、20、27日
11月は 4、10、17、24日

(火曜休館/祝日の場合は開館 翌平日休み)



https://www.kpac.or.jp (※WEB サイトが閲覧できない問題が発生したため新しく更新しました。ご不便をおかけ致しました。)